

ショートコメント vol.60 (2016年11月24日)

テーマ：電子部品の在庫が急増 約5年ぶりの水準に
～今後の生産の下押し圧力となる懸念～

●特定の時期に増える電子部品の生産

過去数年にわたり、関西では電子部品の生産が特定の時期に増える傾向がみられる（図表1）。

タイミングとしては、アップルをはじめとする大手数社のスマートフォンの新製品が発表となる9月から10月にかけて増えるパターンとなっている。

それが特に目立ち始めたのは、アップルのiphone5が発売された2012年ごろからであり、以後、ほぼ正確にサイクルを刻んでいる。

●生産は好調な一方、在庫が急増

今年も例外ではなく、直近の9月は生産が大きく増えている。今年に関しては、韓国大手の新製品が生産中止となったため、その影響が危ぶまれたが、9月の生産状況を見る限り、杞憂に終わったようである。

ただし、気になる動きがみられる。それは在庫の動きであり、電子部品の直近9月の在庫は、例年の2倍に近い量に達するなど、かなりの増加となっている（図表2）。この水準にまで増えたのは、約5年ぶりのことである。

●今後の生産減少に要注意

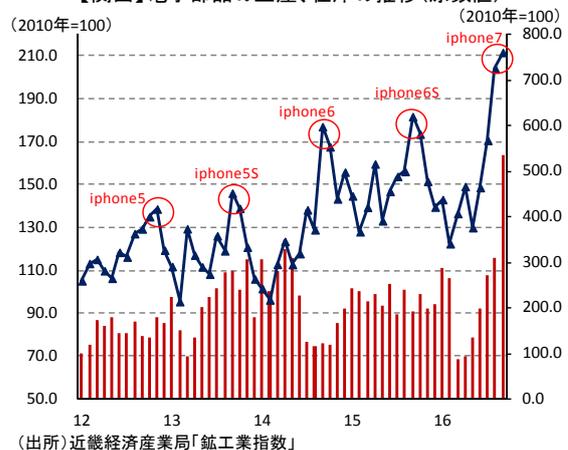
現状、スマートフォンの世界市場は動きが良いとはいえないだけに、新製品に対する需要も、限定的なものにとどまっている可能性がある。いずれにしても今月の動きだけでは判断は困難であり、少なくとも10、11月の動向もみなければならない。

その際、在庫がかなり積み上がっていることを考えれば、生産の予想以上の減少に注意が必要となる。

【図表1】
(2010年=100) 【関西】電子部品の生産の推移(原数値)



【図表2】
(2010年=100) 【関西】電子部品の生産、在庫の推移(原数値)



本件照会先:大阪本社 荒木秀之
TEL:06(4705)3635 mail:hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。